

子どもに注がれる目、目、目…

Aさん・・・「先生、最近の子どもは挨拶をしませんね。」
私・・・「学校でも指導して

いますが、子どもは不完全で未熟です。是非、声をかけ続けてください。きつと挨拶ができるようになってきます。」

これは、ある会合における地域のAさんと私との会話です。Aさんは、松枝小学校の不審者対応で子どもを見守っていたいたり、低学年の「昔遊び名人」に学ぶ活動で指導をいただいたりしているかたです。

Aさんの学校へ寄せる期待はきつと大きなものがあり、「子

どもを何とかしていきたい」との熱い思いが、冒頭の発言になったのだと思います。

ところで、Aさんのように学校を支えてくださっている地域のかたはたくさんいらっしゃいます。

第一に、「ふれあいサポーター」の皆さんの存在があります。現在四人の皆さんが、「ふれあいサポーター」としてボランティアで学校を支えてくださっています。サポーターの皆さんは、毎日校舎内外の巡回のみならず、朝夕の通学指導もしていただいています。指導の結果は、毎月一回の「サポーター会」で交流し合っていますが、内容は子どもの安全確保に関わるものから、学校がかかえているさまざまな教育課題にも及んでいます。今では、松枝小学校の教育を推進するうえで、重要なスタッフの皆さんになっていきます。

第二には、「松枝ふれあいたい」の皆さんの存在があります。「松枝ふれあいたい」は、平成十六年六月に発足させていただきました。「玄関先に一歩出て通学や帰宅途中の子どもを見守って

ほしい」「散歩の時間に子どもを見てほしい」の願いを積極的

に受け止めてくださった三十一人のボランティアの皆さんによって、子どもの安全確保が図られていきます。皆さんの中には、子どもの通学・帰宅時間に合わせて、何回も子どもに関わってくださっているかたも多く、冒頭のAさんは、そのお一人です。



以上、地域の皆さんに協力していただいている一端を紹介しましたが、学校で、地域で皆さんの目が子どもに注がれていることは、交通事故防止や不審者の出没を抑止するだけでなく、「地域で子どもを育てる環境づくり」につながっていくものと考えています。

松枝小学校
校長 清水 雅裕

教育委員会
だより

性教育は生き方指導

様々な情報が氾濫し、性に関する情報を誰でも手にいれることができる現在。性に関する無秩序な情報が、間違った・偏った意識を作り上げてしまうことは大変悲しいことです。

小学校低学年でのスカートめくり、中学年では訳もない男女のいさかい、高学年での淡い男女意識、生理や自慰行為、中学生での恋愛感情、その後の家庭生活や結婚、子育て等々、様々な体験を通して私たちは「性」を認識していきます。この中で身に付けて欲しいことは、

- ①自分という存在の尊さ
- ②他の尊重や責任
- ③恥じらいやつつしみ
- ④畏敬の念や生命の尊重

などです。

中学校の保健学習で「性機能の成熟や性との向き合い方」などについて学ぶ時、「3億分の1の確立」の話をすることがあります。

「母親の一つの卵子に向かって父親の約3億の精子が進んで行きます。その内の一つだけが受精して命が芽生えるのです。君たち一人ひとりの誕生はそれほど尊く、生まれた命はとても大切なものだ。」・・・と。

家庭においてもいろいろな場に出会います。ドラマの中の性的な描写・新聞やTVの事件。そんなとき「相手の気持ちや体のことを大切にしたいね。」とか「こんなことで人生を駄目にしたくないね。」「誠実に生きていきたいね。」などと話したいものです。また、温かい家庭生活を送ることは、何よりも大切な性教育です。

性を考えることを通して「自分の生き方」を考えさせたいものです。



教育電話相談

～悩んだら気軽に電話してください～

羽島郡三町教育委員会

☎245-1133